



新しい教育大綱の策定について

～ワークショップの成果を踏まえて～

未来の福津を創り、担う子どもの育成

1. これからの福津市の教育がめざす方向性

新しい教育大綱は、「未来の福津を創り、担う子どもの育成」を最上位の目標に掲げ、子どもたちが自分らしく幸せに生き、同時にまちの未来に主体的に関わっていく力を育むプランとします。

●「未来の担い手」としての探究心と郷土愛の育成

子どもたちが自ら問いを立て、地域の人々と共に納得解を導き出す「探究的な学び」を重視します。地域の大人と対話し、働くことや生き方を考える経験を通じて、福津への愛着を深め、自らが「まちの創り手」とであるという意識を醸成します。

●「多人数・多層的なコミュニティ」がもつ可能性の最大化

多くの子どもたちが集まる福津ならではの環境を、「多様な価値観に触れ、互いに高め合える豊かさ」と捉え直します。大勢の中で揉まれながらも、一人ひとりが埋没せず、自分の役割を見出し、試行錯誤できる「活気ある学びの場」を整えます。支援を必要とする子や不登校の児童生徒も含め、誰もが自分の個性を發揮できるインクルーシブな教育を、地域総がかりで支えます。

●大人と子どもが共に創る「共育（きょういく）」のまち

「誰が育てるのか」という問いに対し、学校・家庭・地域の境界を溶かし、大人も子どもも共に学び合う姿を目指します。大人が楽しそうに生き、まちづくりに励む背中を見せることで、次世代が福津の未来を担う最大の原動力になると考えます。

2. 策定方法へのこだわり（市長の哲学）

教育大綱の策定過程そのものを、未来の福津を担うための「対話と参画」の場と位置づけます。

●「対話」を軸としたボトムアップの共創

市長自らが提唱する「対話」を通じ、大人や子どもたちの生の声を計画に反映させます。既存の枠組みにとらわれず、小学生から高校生までを交えた話し合いの場を設けるなど、世代を超えた対話から本質的な願いを言語化します。

●「自分事」として捉える策定プロセス

完成した大綱が「行政が作ったもの」ではなく、「自分たちが関わって創ったもの」とであるという実感を重視します。この策定プロセスに関わること自体が、市民一人ひとりにとって福津の教育や未来を「自分事」として捉え直すきっかけとなることを目指します。

ワークショップで出された市民の声

- 教室を飛び出し、まち全体を学び舎に
- 不登校でも安心して学べる第3の場
- ICTで自分にぴったりの学びを
- 失敗しても大丈夫、と言える心の余裕
- 豊かな自然の中で、感性を研ぎ澄ます
- 自分の好きな場所が、最高の教室だ
- 多人数の中でも埋没しない居場所づくり
- 学校という枠に縛られない自由な学び
- どこにいても繋がれる、孤独にならない環境
- 子どもたちがホッとできる放課後の充実

- 福津の宝を、本物の体験から知る
- 伝統を守る大人の姿を、瞳に焼き付ける
- なぜ福津で学ぶのか、その答えを創る
- 地域の歴史を知り、未来を自分事に
- 誇れる福津を、子どもの手で描く
- 地元の仕事を知り、夢の選択肢を広げる
- 世界遺産や古墳など、地域のルーツを学ぶ
- 海や山の恵みから、命の循環を実感する
- 自分のまちの「いいところ」を言語化する
- 郷土の先人たちの生き様に触れる

- 正解のない問いに、地域と一緒に挑む
- テストの点より、挑戦の跡を認めたい
- 子どもがまちづくりを提案するワクワク
- 社会の困りごとを、自分事として考える
- 大人との対話が、新しい問いを生む
- 順位で測れない「個性」を輝かせる
- 異世代交流で、多角的な視点を手に入れる
- 実社会の課題に、チームで取り組む
- 自分の意見がまちを変える、成功体験を
- 多様な大人と対等に話せる力を磨く

- 大人が楽しんで生きる姿を見せよう
- 教える側も教わる側も、共に育つ街
- 地域のプロが「先生」になる日常
- 誰が育てる？「街みんな」で育てる
- 学校と地域がゆるやかに繋がっていく
- 大人こそ、学びアップデートし続けよう
- 保護者や地域住民が、教育のパートナーに
- 先生の負担を減らし、チームで教育を支える
- 失敗を許容し、応援し合う文化の醸成
- 生涯を通じて、誰もが学べる風土づくり

「教室に閉じこもらない、まちぐるみの学び場」 「多様な選択肢がある、一人ひとりの居場所」 「心理的安全性が担保された挑戦できる環境」

子どもたちが「自分らしく幸せに(Well-being)」生きるためには、画一的な教室環境だけでなく、福津の豊かな自然や公共施設、デジタルの力など、まちのあらゆるリソースを学びや体験の場として開放する必要があります。不登校や特別な支援を必要とする子も含め、誰一人取り残さず、多人数・多層的なコミュニティの良さを活かしながら、一人ひとりが自分のペースで安心して試行錯誤できる「多様な学びのネットワーク」の構築が求められます。

「郷土への愛着と誇り(シビックプライド)」 「本物から学ぶ、福津ならではの体験」 「福津での未来を描く、キャリア教育」

「未来の福津を創る・担う子ども」を育てる第一歩として、自分たちの足元にある価値を知ることが望まれています。福津がもつ豊かな自然、歴史遺産、そしてそこで働く人々の情熱に直接触れる体験を通じて、知識としての学習を超えた「郷土への深い愛着」を育場が必要です。このまちで学ぶことの意味を自分事として捉え、自らのルーツに誇りを持つことで、将来どこにいても福津の未来を考える力を養うことが求められています。

「社会課題に挑む、探究的な学び」 「数値化できない「プロセス」の評価」 「子どもが主体となる、まちづくりへの参画」

変化の激しい時代に必要なのは、正解のない問いに対して他者と協働しながら納得解を導き出す「探究心」です。市長が提唱する「対話」を軸に、子どもたちが地域の課題を自分事として捉え、多様な大人と対等に関わりながら解決策を模索する場が必要です。結果や順位だけを重視する評価から脱却し、試行錯誤や挑戦のプロセスそのものを肯定することで、自らの手で未来を切り拓く主権者意識を育むことが望まれています。

「大人自身の学びと自己変革(共育)」 「コミュニティ・スクールのさらなる充実」 「まち全体で育む「教育タウン」の実現」

教育はまち全体の文化そのものです。子どもが「未来にワクワク」するためには、まず大人が学び続け、楽しむ姿を見せることが不可欠であり、「共育(きょういく)」の視点のもと、地域のプロが教壇に立ち、保護者や住民が教育を自分事として捉える、境界のないコミュニティが必要とされています。次世代を育む最良の環境として大人も地域もアップデートし続ける風土を望まれています。



「個別最適な学び」と「多様な居場所」の充実

- 1人1台端末を活用した、子どもの進度に応じた自律的な学習支援
- 官民連携によるフリースクールや放課後等の学びの多様化支援
- 「誰一人取り残さない」インクルーシブ教育システムの推進や校内教育支援センターの設置
- 次世代のデジタル環境の構築と AI・先端技術の教育利用の推進
- 保・幼・小・中・高・大の多機関連携による切れ目ない学びの支援

ふるさと「で」学ぶ

「郷土愛」の醸成と「未来の担い手」の育成

- 地域の人的・物的資源を活用した「ふくつの学び（ふるさと学習）」の実装
- 地域の産業や伝統文化と連携したキャリア教育・職場体験活動の充実
- 学校・家庭・地域の連携による、地域課題解決型学習の推進
- 福津の「働く大人」との対話を通じた、自己の生き方を深めるキャリア発達の支援
- 世界遺産等の郷土資源を活用した、国際的な視野をもつグローバル・ふるさと教育の展開

ふるさと「を」学ぶ

「探究的な学び」への変革と「社会参画」

- 総合的な学習（探究）の時間における PBL（課題解決型学習）の充実
- 子どもの声を市政に活かす「子ども会議」「子どもと大人のワークショップ」等の仕組みづくり
- 評価方法の改善（パフォーマンス評価や多面的な自己評価の導入）
- 実社会の課題を文理融合で解決する STEAM 教育と起業家精神等の育成
- デジタル・シティズンシップを基盤とした、主権者教育の高度化

ふるさと「と」学ぶ

「共育」の推進と「学校・家庭・地域」の連携強化

- コミュニティ・スクールの質の向上や高校、大学、企業との連携強化
- 地域の人材による学習活動・体験活動の支援
- 保護者・地域住民を対象とした、共に学び合うワークショップの開催
- スポーツ・文化芸術活動の機会を確保する部活動の地域展開
- 教職員のウェルビーイング向上と地域人材活用による「チームとしての学校」の実現

ふるさと「が」学ぶ



福津市教育大綱 策定の考え方

1. 策定の目的：未来を創る子どもを育む

変化の激しい時代において、子どもたちが「自分らしく幸せに生き、未来の福津を主体的に担う力」を育むための指針を確立します。行政主導ではなく、市民の対話から生まれる「生きた大綱」を目指します。

2. 4つの視点：市民の願いを「ふるさと」に込めて

ワークショップで集まった多様な意見を、以下の4つの柱で構造化します。

- ふるさと「で」学ぶ【環境】：まち全体を学び舎に。誰一人取り残さない多様な居場所。
- ふるさと「を」学ぶ【愛着】：本物の体験から歴史・価値を知り、郷土への誇りを育む。
- ふるさと「と」学ぶ【探究】：地域課題に大人と共に挑み、正解のない問いを楽しむ。
- ふるさと「が」学ぶ【共育】：大人が楽しそうに学び、生きる背中を子どもに見せる。

3. 策定方法のこだわり：市民の「対話と参画」による策定プロセス

- ボトムアップ型：ワークショップ等から浮かび上がった「市民の本質的な願い」を言語化。
- 多世代の参画：子どもたちの声も核心に反映し、世代を超えた「共創」を実現。
- プロセスの共有：策定過程をオープンにし、完成と同時にアクションが始まる熱量を醸成。

「子どもをどう変えるか」ではなく、「大人も子どもも共に育つまち」へ

福津の豊かな資源を活かし、「子どもと大人の好奇心が躍動するまち」を、対話を通じて共に創り上げていく教育のあり方を示すプランの策定をめざしています。

新しい教育プラン策定に向けたワークショップの開催概要

	日時	参加者数	内容
第1回	令和7年 12月20日(土) 13時半～15時半 市役所別館大ホール	45名 中学生6名、 高校生2名、 教職員18名、 地域住民19名	1 講話 『福津市の教育の成果と今後に期待すること』 福岡教育大学副学長・教授 伊藤克治氏 2 グループワーク 『福津の未来の創り手を育む』とは何か
第2回	令和8年 1月31日(土) 13時半～15時半 ふくとびあ健康プラザ	39名 中学生5名 高校生1名 教職員8名 地域住民25名	1 第1回ワークショップの振り返り 2 グループワーク 『問い』を解決するために～子ども・教師・ 家庭・地域のみんなで知恵を出し合おう～
第3回	令和8年 3月20日(金・祝) (予定)	(開催予定)	第1回、第2回のワークショップを踏まえた教育大綱案について、参加者が「具体的にできること」を考え、教育振興プランの内容へとつなぐ